

広島学院中学校

入試科目		算数(Ⅰ)	算数(Ⅱ)	国語	理科	社会	総合
試験時間		20分	40分	60分	40分	40分	-
配点(予想)		※45点	※75点	120点	80点	80点	400点
合格の目安	得点	40点	45点	70点	54点	42点	251点
	(%)	88.9%	60.0%	58.3%	67.5%	52.5%	62.8%
昨年度との比較		やや易化	やや易化	やや難化	横ばい	やや易化	易化

※算数Ⅰと算数Ⅱの配分は、当社の予想です。

算 数

【算数Ⅰ】									
①	分数と小数の四則混合計算	②	割合	③	割合	④	平面図形(角度)	⑤	割合
⑥	平均	⑦	3量のつるかめ算	⑧	平面図形(面積)	⑨	四捨五入の範囲		
【算数Ⅱ】									
①	速さと比	…小問数：3	②	公倍数とベン図	…小問数：3	③	比	…小問数：3	
④	平面図形	…小問数：3	⑤	割合	…小問数：3				

例年通り、広島学院中学校は計算と一行問題9問で構成された算数Ⅰと文章問題5題で構成された算数Ⅱに分けて実施されました。難易度は、例年よりも少しだけ易しくなった印象です。今年も単元に偏りはなく、よく練られた問題で構成されています。

算数Ⅰは「計算を含む一行問題」の9問です。

〔1〕は分数を含む四則計算。難易度も例年と変わりません。〔2〕、

〔3〕は基本的な割合に関する問題です。〔4〕は平面図形の角度の問題。これも易しい問題といえるでしょう。〔5〕はほぼ毎年出題される、3量を比較して求める割合の問題です。簡単とは思いませんが、なんとしても学院に合格したい受験生は十分に練習を積んできているはずです。〔6〕は平均に関する問題で、これも教科書レベルの問題。〔7〕は3量のつるかめ算です。3量のうち2量の比が分かっているので、2

量に変換して解く問題です。過去には算数Ⅱの大問の中の1問としてよく出ていた問題ですので、過去問でしっかりと練習をしていれば見慣れた問題に感じたと思います。〔8〕も受験算数では頻出の平面図形の問題。この〔8〕までは、広島学院中学校を志望校としている受験生にとってはスラスラ解けたのではないかと思います。決して易しい問題ではありませんが、このような易しい構成になっているのは近年では稀で、ミスなく解けたかが合否に影響しているでしょう。〔9〕は受験生の手が止まる問題でした。四捨五入の問題で、「4で割って四捨五入して6になる整数の範囲を考える」という問題です。範囲が22～26と、86～99の二か所あることに気付かないと正解はできません。

今年の算数Ⅰは典型的問題が多く、20分という試験時間で余裕をもって考えられる構成だったといえるでしょう。とはいえ、誰でも解けるような問題ではなく、地道な勉強量が得点に直結したと言えます。

算数Ⅱの出題数は例年通り5問でした。

〔1〕は速さに関する問題です。(1)、(2)は同じ問題です。AとBの速さの差(30分間で360m差がついた)と、同じ距離を進むのにかった時間の比は、速さの比と逆比の関係になっていることがわかれば解ける問題です。(3)は比で求めることも、実際の距離や速さを使って求めることもできる、難しくはない問題でした。広島学院中学校は毎年、難度が高めの速さの問題が出ていますが、今年は直近5年間の中では群を抜いて易しい問題でした。

〔2〕は倍数と公倍数に関する問題です。まずは操作1～3の内容を読みとることが必要です。意味さえわかれば、(1)は1～1000のうち3の倍数でない数の個数を答える問題、(2)は1～1000のうち3の倍数でも5の倍数でもない数の個数を答える問題ですので、難なく解けたと思います。(3)は整理が必要になります。3、5、4の倍数の個数

を、ベン図で整理していきます。どこの部分の個数を求めるのかがわかれば、3問とも正答できる問題です。

〔3〕は3つの水そうの水をやりとりして、水量の比を考える問題です。(1)は水量の比が書いてあるので実際の水量を求めるだけ。(2)からは、比をしっかりと使っていかなければ解けません。元になる水量を、比で置いて考えられるかどうかポイントです。(3)は、難易度の高い問題でした。2つの比を、比例式を使って1つにする。ほぼ方程式といていい比例式が必要で、広島学院中学校入試で高得点をとるにはこのレベルまで求める、ということでしょう。

〔4〕は平面図形の問題です。例年通りの広島学院中学校らしい平面図形です。(1)は連比の問題です。(2)は高さが等しい三角形で、底辺の比と面積の比が等しくなることを利用して解く問題です。広島学院中学校では頻出なので…解ける受験生も多かったかと思います。(3)にもなると補助線も必要になり、ぐっと考えさせられる内容になります。高レベルの知識に加えて、どこを底辺として三角形を捉えるかというセンスまで問われています。

〔5〕も様々な内容を含んだ、広島学院中学校らしい問題です。(1)は植木算の基礎と、公約数の基礎を組み合わせた問題。(2)は、素因数分解をして、縦横の長さの差が一番小さくなる2数を考える問題。

(3)は今年度の広島学院中学校で一番厳しかった小問です。最小公倍数を考え、周期を考え、常に植木算を頭の片隅には入れておく。決して解けないような問題ではないですが、粘り強く考える練習が必要で、さすが広島学院中学校といえる問題です。

数年前に比べて近年の問題は、ⅠもⅡも、広島学院らしさは残しつつも、易化しています。今年も昨年よりは易化しているので、今後もこの

傾向が続くことが予想されます。問題が解き易くなったとは言え、広島
の男子校の最高峰。超難問が減った分、合否を分ける問題が多くなりま
したから、問題文をよく読み、しっかりと考える力が必要です。広島学
院中で頻出される問題のみならず、中学受験に必要な算数の知識をまん

べんなく勉強してください。算数Ⅰでは時間を意識し、算数Ⅱでは試行
錯誤しながらねばり強く考えて解ききるといった練習をすることが大切
です。

国 語

- 一 北村 薫「教科書が言葉を支える」『文藝界 2019 年 9 月号』
- 二 いとうみく『羊の告解』

(随筆文 約 2500 字 小問数 20 問～内記述 3 問)
(物語文 約 4900 字 小問数 26 問～内記述 2 問)

良質の素材を選ぶ確かな眼、卓越した料理の腕、それが学院国語であ
る(はず)。12 歳の男子の国語力を測る王道と言える問題を出題してく
る。語句や漢字をゴリゴリ覚えて、公式めいた読解テクニックで乗り切
ろうとするとあっさりふり落とされる。だからこそ、毎年 1 月が待ち
遠しい(合否となると話は別だが)。

例年広島学院は説明文と物語文の二題構成。手にした 2020 年度の問題
に目を通す。まず大問一は説明的随筆文。雑誌『文藝界』2019 年 9 月号
の特集「文学なき国語教育が危うい」に掲載された北村薫氏のエッセイ
「教科書が言葉を支える」からの出題。

「枚挙にいとまがない」という言葉を例に、知らない言葉を獲得して
いく態度が現代人に欠けていると警鐘を鳴らし、実用的な伝達手段とし
ての言葉と比べて歴史の中で生きてきた輝きに満ちた詩句を味わい、身
につけていくことの大切さを論じた文章。芭蕉の「五月雨を集めて早し
最上川」や西脇順三郎の「天気」「(覆された宝石)のやうな朝 何人
か戸口にて誰かとさゝやく それは神の生誕の日」という俳句や詩が出
てくると反射的に目を背ける男子は多い。そこをぐっところえて筆者は
何が言いたいかをていねいに読み取っていく力が求められている。

問一は語句の意味の選択問題。C「溜飲を下げる」が難しいが、選択

問題なので文脈で判断すればいい。問二は「手ごわい剣客さん」は他の
どの言葉と同じかを問うが、〈枚挙さん〉であることはすぐに分かる。
問三は比喩としてとらえた表現を「言葉」の場合で置き換えて説明する
記述問題。聞いたことのない難しい言葉を避けて、知っている言葉だけ
で済ます、というような内容で答えればいいのかでわかりやすいだろう。
問四、「その道」とはどんな道かを説明する記述問題。聞いたことのない
言葉を前後の文脈で意味を考え、その言葉を身につけていくという内
容も説明しやすい。これらの記述問題で苦労しては先はない。問五
の空所補充は文脈をつかめばまず間違わない。「知らないことを切り捨
て、笑う」理由を抜き出す問六も言葉に対する敬意がないからだとわか
るだろう。問七の「打たれるべき《歩》」は何のたとえか、という問題
は抜き出しではなく苦労したかも知れない。使われるべき言葉という発
想ができたかどうかだろう。問八の「小説や詩の表現をやさしく言い換
えたときに失われるもの」を三字で抜き出す問題は続く芭蕉の俳句の説
明を読めばわかるはず。問九は句切れの問題。問十の文章内容を説明す
る選択肢を選ぶ問題はカンタン。問十一は易しいけれども良問。文章内
容を頭に残せないと思いつかないかも知れないが、そういう男の子は「枚
挙にいとまがない」。問十二の記述問題が大問一で一番難しい。「言葉

が歴史の流れの中にある」という抽象表現を具体的に説明する問題。字数も四十字と少なめなのでコンパクトに説明しなければいけない。言葉は感性とともに長い時間をかけて受け継がれていく、というような内容でまとめればいいが、ここは部分点で十分だろう。問十三の漢字の書き取りは「劇」「局面」で差がついたか。「写(す)」を間違えていては勝てない。

大問二はいとうみく『羊の告解』から。中学三年生の涼平の父が金銭トラブルが原因で友人を過って殺してしまい逮捕される。裁判を前に拘置所にいる父に、涼平がひとりで面会に行くが、父は面会を拒否する。拘置所で出会った川端弁護士から、被害者の家族の心情を考えれば、自分だけ家族に会って支えてもらうことはしてはいけないと思っていることを教えられる。面会をしないまま、帰路につき、駅で出会った母と話しながら、涼平は自分をみつめ、心を整理していこうとするという内容。父親が殺人を犯すというハードな設定だが、出題箇所は家族と自分を見つめるという箇所で読後感も良く、素晴らしい素材文だと思う。

問一は副詞の挿入。活字体験の少ない男の子はこういうところで失点するが、合格するためには、ここは全問正解したい。問二（１）「口の中が渇く」という涼平の気持ちを答える問題は、前後を読めば緊張し不安になっていることはすぐわかる。（２）（１）と同じ気持ちを表す七字の表現は直後の「わきが汗ばんだ」を選べばいい。問三は「やっぱり～」「どうして～」のあとに省略されている表現を考える問題。父が面会を拒否していると伝えられている場面なので即答できるはず。問四は川端弁護士に出会い、「ずるいです、父さんは」というシーン。涼平が父さんのことを「ずるい」と言ったのは、涼平が自分のことをどんなふうに思っていたからかを答える問題だが、父さんのどういう点がずるいかと勘違いしないこと。父がしたことで苦労している自分こそ被害者であると思っている。問五（１）川端弁護士が「ひとりごと」という形を使って涼平に伝えたかったことを選ぶ選択問題、（２）川端弁護士がな

ぜそんな話をしたかの理由説明を完成させる穴埋め問題は「なぐさめたい」からとすぐ気づくだろう。問八の川端弁護士の話聞いたあとで涙を流して涼平の思いを選択する問題も楽勝。問七は８つある空所に涼平と母のせりふを入れる問題。実はこの手の問題も読解力のない受験生を振り落とす差のつく問題である。一つ思いつきで入れてしまうと修正できず無理矢理選択肢を放り込んでしまう。残り時間も少なく見直しというわけにもいかないようだ。問八は涼平が父に会いに行ったのは父のためではなく、自分のどんな気持ちに気づくためだったかという選択問題、この場面の最後まで読んで「父さんと向き合うことで、オレはオレ自身に向き合えると思った。オレは、父さんに助けてもらいたかったんだ」から選べばいい。問九は父のことを理解して、自分も前進しようとする涼平のそばで「眼を赤くしている」母の気持ちを説明する一行記述問題。時間切れかも知れないが、難しい問題ではないのでなんとか部分点でもねらいたい。父と面会はできなかったが、父の思いを知り、自分と向きあう勇気を持てた涼平の成長を喜んでいることさえ読み取ればいい。問十は「希望」「心臓」「追加」「不器用」全問正解したい。

易しく見えるが、昨年並みに落ち着くのだろう。広島男子トップ校の選抜試験として相変わらず安定した出題でその完成度は高い。考えさせる問題を要所にちりばめながら、論理的に文章を読み取り、問われていることを正しく理解する力をはかる良問である。特に大問二の物語文は素材の選択がよく、ていねいに料理された良問と言えるだろう。全体的に文章量、問題量も適当で、ていねいに解いていっても時間切れになることなく、全力を出し切ることができた受験生は多いのではないかな。

合格の目安は６割あたりか。ロジカルな読み方がちゃんとできれば確実に得点できるという点で、広島学院国語は万古不変。十二歳の男の子が身につけてほしい読解力をはかるひとつの典型と言える。（kuro）

理 科

- | | |
|---|---|
| 1 | 地学分野から、天気の変化 に関する問題（小問9） |
| 2 | 生物分野から、Ⅰ．植物の特徴 Ⅱ．顕微鏡の使い方 Ⅲ．気孔の数 に関する問題（小問16） |
| 3 | 化学分野から、Ⅰ．身の回りの中和 Ⅱ．気体の発生と中和 に関する問題（小問9） |
| 4 | 物理分野から、Ⅰ．手回し発電機 Ⅱ．発光ダイオード Ⅲ．コンデンサー Ⅳ．前者3つの融合 に関する問題（小問13） |

2020年度の入試問題も、物理・化学・生物・地学から1題ずつの大問4題で例年どおりです。驚いたのは、物理・化学分野で計算問題が1問も出題されなかったことです。全体としても生物分野で、葉の気孔の数を計算させる2題だけでした。だからといって与しやすしというわけにはいきません。学院中入試問題らしい長い説明文や多くてまぎらわしい選択肢をしっかりと読み取る読解力や分析力を必要とする思考問題は健在でした。広島市内で最難関の男子校の入試問題ですから、決して楽な内容のではありません。

1 天気の定番といえる気象衛星「ひまわり」の画像の雲の移動から時間の経過を判断する問題

手掛かりとなるべき雲が明確でないので色々な想定をしながら考えていきます。悩んだ受験生もいたと思いますが、時間をかけ過ぎてはいけませんので、迅速な決断で乗り切りたいところです。後半は、台風の中心付近の風向と、観測地点での台風の通過による影響を考え合わせて、台風の進路を選ぶ思考問題です。言い切ってははいませんが、このような問題をスピーディに判断できる受験生は合格するでしょう。

2 植物の特徴と観察の問題

Ⅰ．植物の特徴についての4択問題で、受験知識がストレートに問われます。もちろん迷わずに正解を選ぶことが出来るに越したことはありませんが、確実に2択までは絞ることができる対応や、消去法で正解が残

せる対応も受験学習の成果と言えます。Ⅱ．顕微鏡の使い方からの頻出の知識問題、何度も演習してきた内容なので間違いは許されません。Ⅲ．葉のある一定面積あたりの気孔の数が図に示されているので、葉の実際の面積との対応から気孔の数を求める、算数的な計算問題です。小数点の位置や小数点の位置や単位の変換ミスに注意するだけです。

3 身の回りの中和を考える問題

学院の入試問題では珍しく、学君とお爺さん（なぜか漢字表現）の対話形式の設定の中で、身の回りの現象を受験知識（酸・アルカリ・中和）につなげる内容です。ムラサキキャベツ・ブルーベリー・赤ジソ・アントシアニンという受験知識としては微妙な名前が並びますが、対話文をしっかりと読んで、理解すれば、正解にたどり着けます。Ⅱ．気体の集め方からの知識問題で、記述と作図もありますが、合格のためには全問正解を目指したいところです。

4 手回し発電機などの物理誘導問題

「電気」は、近年、出題から遠ざかっていたので、出題は順当なところですが、しかし、内容には驚かされました。手回し発電機・コンデンサー・発光ダイオードという新傾向といえる内容です。解いていく際には教科書レベルの知識があれば十分です。そして、その知識をもとに図1～図12の実験結果や決まり事を理解して考えていく問題になります。長い説明文に負けない読解力と理解力があれば、時間を取られる計算問題がな

いので、最後まで問題に取り組める時間はあったと思います。一方で、見通しの立たない断片的な理解に終わった受験生は、自信のない選択をくり返したかもしれません。

このような入試問題に対応するには、幅広い受験知識と実験データなどを分析、判断する力、そして、何より長い文章を読み、理解する読解力が不可欠になります。

社 会

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 《歴史・地理》広島県内の資料館や施設に関する問題（7問） |
| 2 | 《公民》日本国憲法・国会・内閣・地方公共団体に関する問題（9問） |
| 3 | 《歴史》飛鳥時代～江戸時代に関する問題（14問） |
| 4 | 《歴史》明治時代～昭和時代(戦後)に関する問題（13問） |
| 5 | 《地理》日本の自動車産業に関する問題（10問） |

2020年度の広島学院中学入試は、53問と昨年よりも6問少ない問題数で、問題用紙は昨年よりも3ページ少ない26ページとなりました。広島学院中学はとにかく「問題数が多く、記述問題が多い」という印象が毎年強いです。テキパキと問題を処理していかないと時間が足りなくなってしまいます。解答用紙もびっしりと詰まっていて、合格するためには難問にばかり時間を取られすぎず、基本問題を如何にミスなく的確に処理していくかが合格のカギとなります。問題数の内訳は、記号選択(24問)・語句記述(21問)・文章記述(8問)となっています。

①は広島県内の資料館や施設に関する問題。問1は反戦詩に表現されている戦争における2つの日本の立場を答える問題・問2の市町と特産品の組み合わせを選択する問題・問3の朝鮮通信使が江戸に向かう港を順に並び替える問題など、受験生が戸惑う問題が続きました。おそらく自信を持って解答できた生徒は少なかったはずです。

②は日本国憲法・国会・内閣・地方公共団体に関する問題。大問2で公民分野からの出題となりました。ただし、基本問題に準拠しており、

問9の市町村合併の救助活動をする上でのデメリットを考えて説明する記述問題も比較的解答しやすかったはずです。

③は飛鳥時代～江戸時代に関する問題。問1は適語補充問題。問2は俳諧・短歌・狂歌を題材に、防人や年中行事、万葉集におさめられている歌を選択する問題が出題されました。また、問3・4ではビジュアル資料からの出題でした。特に問4は「量程車」「象限儀」「羅針盤」の資料から、伊能忠敬が正確な日本地図を作成するための測量に使った道具であることを読み取る問題でした。距離・角度・方角をはかることを読み取れば、難しくはありませんでした。

④は明治時代～昭和時代(戦後)に関する問題。問3の資料を参考に貧しい人々が子どもを学校に通わせることに反発した理由を説明する記述問題。問4の西郷隆盛・板垣退助が明治政府の改革に不満を持ち、起こした具体的な行動を両者の違いを含めて説明する記述問題。この2つの問題は、書くべきことを整理したうえで記述する必要がある、時間をある程度かけなければならない問題でした。ただし、その他の記号選択問

題は解答しやすい出題であったと思います。

〔5〕は日本の自動車産業に関する問題。問1・3・4・5が表やグラフの読み取り問題。問2・6・7は記述問題。しかし歴史分野に比べると解答しやすい難易度だったはずです。そのため、前半部分に時間をかけすぎてしまった場合、取れる問題を落としてしまった受験生もいたのではないのでしょうか。

今年の広島学院中学入試合格のカギは、次の2点でした。

まず、とにかく時間内に問題を解くことが重要です。極端なことを言えば「10秒考えて答えの見当がつかない問題は後回しにする」くらいの気構えで取り組んで構いません。地理・歴史・公民すべての分野で正確な

知識の理解と迅速に要約する力が問われています。暗記科目だからといって単純暗記するだけでは太刀打ちできません。しっかりと語句の意味や背景などを理解して受験に挑みましょう。つぎに、問題を解くなかで決して諦めないことです。難易度は年によって異なりますが、最後まで諦めず問題に取り組む姿勢と、少々分からない問題があっても動揺しない強い精神力が必要不可欠と言えます。